【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2004-534234(P2004-534234A)
【公表日】平成16年11月11日(2004.11.11)
【年通号数】公開・登録公報2004-044
【出願番号】特願2003-511037(P2003-511037)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　21/33　　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　21/027　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　21/33
Ｈ０１Ｌ　21/30　　５１６Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成17年6月30日(2005.6.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
酸素をオゾンに変換することのできる種類の放射エネルギーを算定するためのセンサにおいて、
ガス入口（４）とガス出口（６）とを有し、放射（１２）を通すことのできる測定室（１）と、
ガス入口を介して測定室に酸素含有ガス（９）を供給しかつガス出口を介してガスを排出するための手段（８）と、
測定室内にあるガスまたはガス出口を介して排出されるガス（９ａ）のオゾン含有量、とくに酸素含有ガスに比べて放射エネルギーに依存して高まったオゾン含有量を測定するための少なくとも１つのオゾン検出素子（１０）と、
測定されたオゾン含有量から放射エネルギーを算定するための評価手段（１２）と
を備えていることを特徴とするセンサ。
【請求項２】
さらに、放射（１２）によって長手方向で横断可能な直線状測定管（１）によって測定室が形成されていることを特徴とする、請求項１記載のセンサ。
【請求項３】
さらに、ガス入口（４）とガス出口（６）が測定室（１）の相反する末端領域にあることを特徴とする、請求項１又は２記載のセンサ。
【請求項４】
さらに、オゾン検出素子（１０）がガス出口（６）の領域またはこのガス出口から出発するガス出口管路（７）に配置されていることを特徴とする、請求項１～３のいずれか１項記載のセンサ。
【請求項５】
さらに、ガス供給手段（８）が酸素含有ガスの供給率および／または酸素濃度を可変調整するように整えられていることを特徴とする、請求項１～４のいずれか１項記載のセンサ。
【請求項６】

酸素含有ガスを供給するやり方として、測定室に常に新鮮に供給される酸素含有ガスを貫流させることを特徴とする、請求項１～５のいずれか１項に記載のセンサ。

【請求項７】

酸素含有ガスを供給するやり方として、酸素含有ガスを脈動させて供給することを特徴とする、請求項１～５のいずれか１項に記載のセンサ。

【請求項８】

放射（１２）で作動する光学結像システムにおいて放射エネルギーを検出することへの、請求項１～７のいずれか１項記載のセンサの使用。